

2020年9月27日(日)／説教者：神谷武宏

説教：「見よ、天からのパン」

聖書：出エジプト記16:1～18

数々の不思議な状況を経験した民は、荒れ野に導かれ真の自由を勝ち得たわけだが、民は三日目には早くも「不平を言った」(15:24)。ここを読むと“もう少しは忍耐しろよ”と言いたくなる。しかし私たちは、三日で不平を言う民を笑うことが出来るのか。私たちの信仰も、目の前の状況に左右されやすい。うまく行っている時は喜び、そうでないと不平を言う。このところは弱さを持つ人間のあり方を示している。今朝の箇所もまた民の不平から始まる。パンと肉を食べたいという。

神は、それでも民に必要な糧を備えてくださる。12 節に主なる神の思いが記されている。「わたしは、イスラエルの人々の不平を聞いた。彼らに伝えるがよい。『あなたたちは夕暮れには肉を食べ、朝にはパンを食べて満腹する。あなたたちはこうして、わたしがあなたたちの神、主であることを知るようになる』と。」神は、民に必要な糧を備えてくださる。このパンとは「マナ」と呼ばれるもの。「これは一体なんだろう」という意味。まさに天から降ってきた神の恵みそのものである。

神は、マナを集めるにあたって物申す。「あなたたちはそれぞれ必要な分、つまり一人当たり一オメルを集めよ」と。この「オメル」という単位は、この出エジプト記にしか出てこない。この単位は非常に不思議な単位で、いわゆる固定した単位ではない。「ある者は多く集め、ある者は少なく集めた。しかし、オメル升で量ってみると、多く集めた者も余ることなく、少なく集めた者も足りないことなく、それぞれが必要な分を集めた」(16:17,18)。このことは非常に大事な要素を含んでいる。必要なものは、今日一日分の量で十分であると教える。この世界の食事情は、世界中の人々が食べて十分な量は有るとされている。しかし、一部の人が、「一オメル」以上の腐るほどの量を我が物とする。今現在、飢えで亡くなる人は世界中で4万人いる。また、日本で一日に捨てられる賞味期限切れなどの食料は、3千食。神の「一オメルを集めよ」という言葉に、本来あるべき共同体の在り方が問われている。

最後に、「マナ」は「これは一体なんだろう」という驚きの意味があるが、ただ単に不思議な食事というだけでなく、ここで私たちは、神が毎朝くださる神の言葉として受けて行きたい。毎朝、御言葉を頂いているか。神は、毎朝、私たちに「一オメル」の「天からのパン」を用意してくださっている。そのパンを頂いているか。腐らしてはいないか。神は私たちに必要な「一オメルを集めよ」とおっしゃっている。神の言葉は、日々、備えてくださっている事を覚えたい。(神谷)